

第2回学校運営協議会 議事録

日 時：令和6年9月20日(金) 15:30～17:00

場 所：和歌山工業高等学校 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽 氏 (和歌山商工会議所専務理事)

村田 頼信 氏 (和歌山大学システム工学部システム工学科教授)

梅田 千景 氏 (和島興産株式会社代表取締役)

和田 通尚 氏 (海南市立巽中学校長)

前田 隆一 氏 (本校全日制育友会会長)

高垣 晴夫 氏 (本校同窓会副会長)

西村 保展 氏 (本校同窓会副会長)

藤田 勝範 (本校校長)

(学校出席者)

阪中 潤 (全日制教頭) 木田 誠治 (定時制教頭) 額田智香子 (事務長)

松田 望 (地域連携担当) 児玉 幸宗 (総務部長) 日裏 克 (教務部長)

西村 康宏 (進路指導部長) 東 美幸 (生徒支援部長 (教育相談))

上田 裕子 (学校評価委員会委員長)

中村 成均 (定時制教務部長) 坂口 佳隆 (定時制進路指導部長)

- 【1】 開会
- 【2】 会長挨拶
- 【3】 校長挨拶

本日の出席者は、8名であるため、会議として成立し、議決事項がある場合は有効となること、会議の内容については、公開が原則であり、議事録についても本校ホームページに掲載していくことの確認を行った。

【4】 議事 (議長：田中会長)

- (1) 本校の教育活動について報告及び協議

全日制阪中教頭が報告、説明を行った。その後定時制木田教頭が報告、説明を行った。

- (2) 生徒アンケートについて

全日制教頭が報告、説明を行った。その後定時制教頭が報告、説明を行った。

各説明の後、委員の皆様から以下のご意見や質問をいただいた。

委員) 全国定時制通信制バトミントン大会の結果はどうだったのか？

木田) 残念ながら1回戦敗退となった。

ただ、試合後に当該生徒の授業態度に変化があったと聞いている。

委員) 定時制の特別支援 LHR (ロングホームルーム) の取り組みは参考になる取り組みである。

アンガーマネジメントの教育は中学校でもしていきたい。参考にしたい。

全日でも、そういった取り組みはあるのか？

阪中) 全日制では、同様の取り組みは行っていないが、今年度から生徒指導部と教育相談室を一つにして生徒支援部としたことにより、学校としての生徒への対応の仕方は変わってきている。

委員) 定時制の特別支援 LHR の取り組みは、いろいろな人との関わりを増やす、良い取り組みであると思う。

自己形成や人との関わりのイベントの生徒の参加率はどうか？

木田) 必ず全員が参加しているわけではない。いまは不登校や特別支援の生徒が多い。

委員) 就職状況はどうか。

木田) 人数が少ないからこそ手厚い対応や指導ができています。

不登校であった生徒の多くが登校できるようになってきている。不登校生徒の回復率が高いことを魅力と考えている中学校もある。

委員) 全日制のクラブは、活躍している生徒も多いが、イベント、校外への試合・練習参加へのサポートはあるのか？(部活動の遠征費など)

大石) 生徒会、PTA で協力してもらっている。大会の成績等で割り振りをを行い、旅費については 7 割を負担してもらっている。また、部費を集めて計画を立てて実施しているクラブもある。保護者は、クラブ活動に非常に協力的である。

委員) クラブ活動時の傷害保険や賠償保険はどうなっているか？

大石) 入学時に傷害保険に全員加入している。スポーツ保険もクラブ別で加入している。

委員) 試合や遠征で授業にでられなかった際のサポートや保障はどうなっているか？

大石) 7 学科あるが、実習は必ずサポートしている。普通教科については生徒が、個々の先生に聞きに行くようにしている。学科によってバラツキはあるが、概ね学習保障はできていると思う。

委員) 自転車保険の加入や安全運転の指導は行っているか？

大石) 入学時に任意保険の自転車保険を案内している。

委員) 自転車の事故であっても、多額の賠償補償が必要となる場合もあるため、何らかの保険に入るように指導をしてあげてほしい。

委員) 自転車のヘルメットの着用が努力義務となったが、着用率はどうか？ もしもの事故があった場合は、ヘルメットを着用していた方が生存率が上がるのではないか。

大石) ヘルメットを着用する生徒は、以前よりは徐々に増えてきているように感じる。ただ、自転車乗車時のマナーは悪い。

最近の自転車は、スピードが出るものが多いため、車道走行時などのルールやマナーの周知がもう少し必要であると思う。

委員) 定時制の特別支援 LHR の取り組みは興味深い。社会に出る前に、ハラスメントやストレスチェックなどについて学生のうちに勉強しておくべきであり、ハラスメント等に対応できる人間力を養っておくべきである。(1 日でやめる人が多い。体調崩す人が多い。)

阪中) まだそこまでできていない。人間力については、藤田校長から 1 学期末や 2 学期始業式などの機会に伝えていただいている。

特に本校は就職する生徒が多いため、社会に出て必要となる人間力は、在学中に身に付けておくべきであると考えます。

委員) アンケート結果について、本校を選んだ理由で「ものづくり教室に参加したから」という

生徒が増えて欲しい。資格取得ができることを魅力と感じて入学してきた生徒には、是非それに応えてあげてほしい。

「自分自身について」の回答では、自分に自信がない生徒が多いように感じた。

「制服について」は、いろいろな意見があったがどのように対応しているか。

大石) 今年度より、夏制服にポロシャツを着用できるようにした。無地で3色(白、黒、紺)であれば着用しても良いこととした。来年度に向けては、ワンポイントが付いたポロシャツを可にするなど、柔軟に対応していきたい。

校長) 星林高校もポロシャツにしているが価格が高いと聞いている。経済的に問題がある保護者も多く、いろいろな家庭があるため、費用がかからないようにしたい。様子を見ながら、費用を抑えられるよう考えていきたい。

令和8年度から、和歌山市内の中学生の制服が変わるため、それに併せて制服を変える学校が多い。本校も今年度から制服検討委員会を立ち上げ、検討中であるが、デザイン等については、生徒の意見も参考にしながら決めていきたい。

委員) コロナ禍を乗り越えて入学してきた生徒たちが在籍していると思うが、従来の生徒と比べて何か変化は感じているか。人との距離感などに変化はあるか。

西村康) そこまで変化は感じない。今までの生徒と変わらないと思う。

委員) 夏制服へのポロシャツ導入は、生徒達の意見を取り入れていただいていることが分かった。他に日々の教育活動で意識をしていることはあるか。

大石) 毎日の挨拶を大切にしている。毎日正門で校長・教頭が街頭指導を行って、挨拶を行っている。その他、教頭2人で授業中に校内を回っている。クレームには即対応することを心掛けている。学校外での生徒の様子も聞くようにしている。

阪中) 生徒総会について、去年から生徒会役員が校長と対話して生徒からの要望を交渉している。実現可能なことはできるだけ叶えてあげることで、交渉に立ちあつた生徒は達成感を味わい、それを全校生徒に伝えている。また、不可能なものは、なぜ実現できないか理由を伝えることにより、納得しながら進めることができている。

木田) 定時制も生徒の希望に向き合うようにしている。実現できないときも丁寧に理由を伝えている。叶えてあげられる部分は叶えていこうという姿勢を大切にしている。

委員) 先生の数には足りているか? 教員だけではなく、マイスターなどの外部からの指導者も積極的に活用していくべき。

木田) 十分足りてはいないが、生徒としっかり向き合うようにしている。

委員) 成人年齢の引き下げにより、18歳から大人として扱われ、有権者となることとなった。生徒の様子で何か感じることはあるか。生徒たちは、責任の自覚をどれくらいしていると思うか。

生徒のアフターフォローをしっかりととしてあげて欲しい。母校は大切な存在である。

本校も避難所としての指定を受けていると思う。地震や災害時に今後どのようにしていかなければならないか、有事に地域に対して何ができるかを考える機会を設けてあげて欲しい。

最後に、本日の学校運営協議会で出された意見などを、田中議長にまとめていただいた。

次回第3回の学校運営委員会については、前年同様に懇談形式にすることとし、懇談の対象は保護者、若手教員等のいずれかにすることとした。

また、第3回の日程調整については、事務局が議事録を送付する際に調整させていただくこととした。

【5】 閉会挨拶

藤田校長が閉会の挨拶を行い、終了した。